

## 公開講座

## 歯の健康講座

## ～真砂小学校親子歯みがき教室～

木暮ミカ

明倫短期大学 歯科技工士学科

Parent-Child Tooth Brushing and Oral Health  
Promotion Program

Mika Kogure

Department of Dental Technology, Meirin College

キーワード：プリシード・プロシードモデル，親子  
歯みがき，仕上げ磨き，口腔保健啓発活動Keywords：PRECEDE-PROCEED Model, Parent-  
Child Tooth Brushing, Finishing Care After  
Tooth Brushing, Oral Health Promotion Program

## 要 旨

地域住民の健康に貢献することを目的とし，本学ではプリシード・プロシードモデル<sup>1)</sup>の第6段階として，隣接する新潟市立真砂小学校の2年生児童とその保護者を対象とした「親子歯みがき教室」を毎年開催している。

## 1. はじめに

口腔の機能を守り，健全な永久歯列の発育を促すために，乳歯列期から混合歯列期における齲蝕予防は特に重要であり，児童自身の口腔清掃だけでは不十分であり，保護者による仕上げ磨きは不可欠とされている<sup>2)</sup>。また十分な口腔清掃の効果をを得るには，個々に応じた口腔清掃指導計画を立案・指導する必要がある。

本学では，平成16年より真砂小学校の学校歯科医に就任したことを契機に，プリシード・プロシードモデルに基づき，効果的な集団歯科健診システムの構築を試みている。その結果，平成20年，21年2年連続で「新潟県 よい歯の学校」優良校を受賞するなど，一定の効果が得られている。

## 2. 「プリシード・プロシードモデル」とは

米国，カナダを中心に，世界各地でよく用いられているヘルスプロモーションや保健プログラムの企画・評価モデルである。プリシード・プロシードモデルは以下の段階からなる。

第1段階：社会アセスメント：対象集団が自分自身のニーズやQOLをどう考えているのかを知る段階

第2段階a：疫学アセスメント：健康目的を具体的に特定する段階

第2段階b：行動・環境アセスメント：健康問題の原因となっている行動要因と環境要因を特定する段階。重要性と変わりやすさによって要因をしぼり，行動目的あるいは環境目的を作成する

第3段階：教育／エコロジカル・アセスメント：行動・環境目的を達成させるために，具体的に変わっていかなくてはならない要因を特定する段階。要因は準備要因，強化要因，実現要因の3つのカテゴリーにわけられる

第4段階：運営・政策アセスメント：プログラムに必要な予算や人材などの資源とプログラム実施の際の障害などを明らかにする。現行の政策，法規制，組織内での促進要因や障害要因なども明らかにする  
第5～8段階：実施と評価：プログラムの実施段階では，さまざまな介入策を組み合わせしていく

評価の視点は最初の段階からもったほうがよい。第4段階までに適切な指標を作ることによって，後の評価が簡単になる。実施がある程度すすんだところでプロセス評価を行う。事業に投入した内容，実施段階での諸活動，プログラム関係者の反応などを評価する。次は影響評価である。第2b，第3段階で設定した行動・環境目的と，準備要因，実現要因，強化要因の分析結果に基づいて得られた諸目的が，どの程度達成されたかを評価する。最後に結果評価である。第1，第2a段階で設定したQOLに指標と健康目的を評価する。プリシード・プロシードモデルはあまりにも包括的すぎて，難しいという側面もある。しかしながら，このモデルの概要を知っておくことは，国際保健領域におけるヘルスプロモーション活動実践のためにも重要である。(図1)

